

海津市まちづくり委員会「第9回安全・安心まちづくり検討分科会」会議録

開催年月日	平成23年12月20日(火)	
開催場所	海津市役所 海津庁舎 3階 委員会室	
分科会委員定数	17名	
開 会	午前9時30分	
閉 会	午前11時40分	
出席者	○分科会委員	
	公募市民	白 井 春 幸
	海津地区交通安全協会長	堀 田 行 雄
	海津地区防犯協会副会長	牧 野 光 子
	海津市更生保護女性会代表	中 島 雅 子
	高須生活学校代表	加 藤 佳 余 子
	海津市自治連合会代表	宮 脇 信 幸
	海津市社会福祉協議会	水 谷 英 基
	総務課	神 田 勝 広
	学校教育課	宇 佐 美 伸 幸
	消防課	戸 島 正
	海津警察署 生活安全課長	有 井 隆
	岐阜経済大学教授	菊 本 舞
	○事務局 企画政策課 課長	中 島 哲 之
	〃 係長	徳 永 宗 哲
	〃 主任	毛 利 卓 司
	〃 主任	二 俣 真 琴
	ファシリテーター	石 垣 幸 雄
欠 席 者	NPO 法人 海津おやじの会	樋 口 幸 二
	公募市民	大 倉 金 次
	福祉総務課	浅 野 貴 康
	NPO 法人 セーフティポートコミュニティ平田	丹 羽 公 成
	南濃北部地区防犯パトロール隊顧問	藤 田 良 博
会議次第	1. あいさつ	
	2. 検討内容	
	①動きやすい組織と役割	
	②海津市全体の安全安心まちづくりの構想について	
	3. 講評	
	4. 閉会	

会議録（要約）

事務局	みなさんこんにちは。 これより、海津市まちづくり委員会「第9回安全・安心まちづくり検討分科会」を開催させていただきます。 会に先立ちまして、分科会長より一言ご挨拶をお願いします。
会長	（会長あいさつ）
事務局	ありがとうございます。本日の検討の進行を菊本委員よろしくをお願いします。
菊本委員	皆さんおはようございます。 この安全安心まちづくり検討分科会も第9回になりました。皆様から様々な方面から検討して頂いたこの海津市における安全安心まちづくりの現状と課題について、今日は事務局の方で今まで取り組んできたまとめについて、まだ不足しているところもあります。現時点でのまとめという事で、事務局から説明させていただきます。
事務局	（資料をもとに現状と課題について説明） 何かご意見等ありますか。
A委員	石津小学校のスクールボランティアはどこかにはいないか。
事務局	スクールボランティアについては“各小学校では”の所に含めています。
B委員	高須生活学校も下校時も見守りは行っていますので記述してください。
事務局	生活学校と更生保護女性会については“地域住民による防犯活動は”の所に記述します。 行政関係の活動について交通安全指導員の巡回と行政無線を利用した下校の周知と防犯等の設置ですが、防犯灯は自治会からの要望でいいですね。
C委員	自治会からの要望でいいです。
D委員	安全安心に対して言うと、かなり広い範囲になるだろうと思います。そうすると例えば今のスクールボランティア的ないわゆる小学校の登下校を守るという事でも安全安心につながるでしょうし、それから不審者とか犯罪の抑制とか、ここに書いてある“知らない人”との交流図るというのがある意味安全安心になる。これって当初言われたような地域ぐるみでやるとなると、まちづくりの一番のもととなっておりますので、一回こういった団体というのを一堂に集めてですね、そういう会を持ってやるというのが一番いいのではないのでしょうか。社協とか立ち上がっているところでは小学校地域でたちあがっている団体で部会を立ち上げるのが一番いい方法だし。それから中に入った人がわかりやすいだろうと思うのです。 もっとと細かい事を言うと小学校の登下校の見守りというのがありますが、提言としては見守りという団体がたくさんあっていいと思いますが、それぞれの自治会によって通学路を決定しとると思いますが、これって少子化になった場合は、どこかと連

事務局 D委員 A委員 会長 A委員 菊本委員	携して、どこかで集まって学校へ行くこの辺の所をもっとつめていくような方法をとるために、要するに小学校区における安全安心の分科会が必要なのかなと思います。 やり方（小学校区での部会等の設置）については提案に記述しています。 ほかにならないようでしたら提案の方を説明します。 （提案について資料をもとに説明） なにかご意見ありますか。 先ほど課題にあった資金不足で活動に支障があるという事も100%ではないにしても、ある程度の資金は地区社協で補う事が出来る。わざわざ資金を集めなくてもそこで活動する事が出来る。 防犯について考えると、組織的には地区社協の組織でいいのだが、防犯に限るとあまり地区社協に頼るのはおかしいと思う。地区社協は別物。 地区社協自体を福祉の団体であるという風にイメージづける事が間違いだと思う。地区社会福祉協議会という名前は一回解体して、いわゆるまちづくり協議会にした方が確かに原資は社協から出ているけども、もとを言えば市から出ている事と同じことですよね。 各戸の住民が出すお金を使っている、それだけじゃなしに自治会活動交付金が出ています、市長は「それがまちづくりの原資ですよ」と言いますが、それは自治会によっては使う自治会と使わない自治会と極端にあるのです。だったらそれらの内の一部をまちづくり協議会へ入れて原資が増えれば活動がしやすくなる。それから事務局から説明があった全部をひっくるめたまちづくり協議会に安全安心部会をつくる、それもありますよ。 だけど組織としては、海津市と社会福祉協議会がありますが、あなたが言われるように海津市のまちづくりは、各自治会、小学校区でもいいが、防犯を意識して公園を作るとか、例えば見通しのいい公園を作るとかなら海津市の安全安心まちづくりでいいが、福祉の場合は高齢者を見守るとか、子どもとお年寄りのコミュニケーションの場を作るとかそういうのを作るべきだ。あるいはまちづくりというのはその地域のいろいろな事、福祉もあるが地域を活性化するのが海津市のまちづくりの趣旨ではないか。だから防犯のまちづくりでも社協がやるのと行政がやるのと別物だ。 お二人のご意見はごもっともだと思います。多分提案の書き方で引っかかりあるのだと思います。②の提案は“協議会は”のあとすぐに地区社協さんを念頭に置いているような書き方をしているため、安全安心まちづくりの分科会に既存の福祉の分野の団体を、しかも行政とは別の団体を念頭において提案してしまうのはおかしいのではないかとということですよね。 ですので書き方としては先に後半の部分に書いてある“防犯活動に限らず地域にとって有益な活動を行う地域協働体”というものを小学校区単位を中心として作ったらどうかこの分科会の中で出てきたご意見なので、まずは地域協働体のまちづくり協議会を念頭に置きながらそういったものを設置していった中で活動していったら
---	--

	どうかというご提案で、ただし例えば地区社会福祉協議会等の中で安全安心の部会というのを設置して、地域によっては実情に合わせた弾力的な運用というのをしていく必要があるといった但し書きで地区社協という名前を入れさせていただく、そういったご提案にさせていただくのでどうでしょうか。 この分科会の中で何回も出てきていることですが、安全安心まちづくりを進めていく中で、意識が高いメンバーとは違う低いメンバーがいる中で、その方たちにこういった形で参加して頂くのかという事が、一貫して毎回この分科会の中で出てきたことでして、この提案としては、防犯の取り組みだけではないという事をこの提案の中に入れ込むという事が重要なご指摘だと思うんですね。ですから社協の名前そのまま外すのではなくて但し書きで、地域の実情と合わせて様々な防犯以外の分野の地域で活動している団体も一緒に連携して取り組んでいけるような形というような書き方に替えさせていただくのはどうでしょうか。
E 委員	はい、結構です
A 委員	我々分科会がこの提案を生きたものにしなければならないから、この提案に優先順位をつけるとか、これだけはやるとか、協議会みたいなものを作ってモデル的にやるとか、これではなんか検討会みたいなもので単なる提案だけで終わってしまう気がする。
菊本委員	この分科会ではどこまでそれをやるかという事があるかもしれませんが、今ありましたご指摘はごもっともなので、今日検討内容にあげた“動きやすい組織と役割”と“海津市全体の安全安心まちづくりの構想について”このテーマは、実は今日事務局がまとめたこの提案の中身を実効性のあるものにしていくためには、どんな条件整理が必要なのか、あるいはもっと言うとなんな団体がどんな取り組みをしなくてはならないか、それをどう促していく仕掛けが必要だろうかということをやらないと、今おっしゃったように提案が絵に描いた餅になってしまうことがあるので、この資料をふまえてこの内容について検討していただいていいでしょうか。
E 委員	はい、いいですよ
菊本委員	ありがとうございます。では2班に分かれて検討を始めてください。 (ワークショップ) では発表をお願いします。
E 委員	検討した事を発表いたします。海津市全体の安全安心まちづくり構想ということで、皆さんからいろいろご意見を頂きましたけれども、まず最初に出たのは私たち市民の安全を考えたときに一番頼りになるのは警察さんであると。ですからこの中央の部分はまだ分かっておりません。さてここをどうしていこうかについてまず私たちが住んでいる社会を眺めた時にそれぞれの団体でそれぞれの活躍は十分しておられます。しかしながらそれぞれのやっておられる活動というのが全部わかっているかというところとどがわかっていない部分の方が多いという事になりました。 それでまず警察さんがここに浮かび上がってきたとします。そうするとそれと同じ

ファシリテーター	ような位置関係にあるのを探してみよう。そしたらなんなんだろうという事になって、まず警察さんは行政さんと常に密な関係にあります。ということになると、ここに行政が浮かび上がってきますし、その下には自治会つまり自治会と言いましても、その自治会の中には、考えられるのは当然地域が自治会をなしていて、その中には例えば郵便局であったり、農協さんであったりこういう民間の企業さんなんかも一緒に入っていただく必要があるのではないかと、そうしてきますとその前の今日の資料にもありましたが社会福祉協議会というのも頭の中に浮かんでくるわけですね。これもやっぱり消すわけにもいかないし、当然存在していなければいけません。ということでとりあえず、社協と自治会と行政と警察さらには、NPO法人の2団体がありますから、やはりNPOの2団体をあげてみました。 いよいよここから皆さん課題を見つける事になったんですね。どのような課題があるのかと考えてみたところ、私たちは警察サイドの防犯協会と交通安全協会この2つで、防犯協会のトップは市長さんだそうです。ですから行政と繋がります。次に行政にどんな委員会があるだろうかと考えた時に、民生児童委員会であったり、当然総務課さんがいろんな立場でかかわっていただいたり、学校関係は教育委員会ですし、交通安全指導員さんも行政サイドから選ばれていますし、学校はスクールボランティアが入るという事で書かせてもらいました。 私たちが一番知りたかったのは、このNPO法人の活動内容を知らせてほしいなということで、ここに情報の提供をしてほしいという事で書きました。 それから警察サイドの方がより知られてないと思うのですね。防犯協会があるのは知っていますが、どんな人たちで構成されているのか、また補導員さんがいるのは知っているが地区にどの程度いるのだろうかとか、そういった事も何もわかりませんからそういった事も機会があったら教えてほしいなという事で書いてみました。 でここはですね、少子化により近隣自治会と連携で通学路の見直しをする必要があるのではないかと、協賛企業へのアピールが必要であるとか、とにかくまだ中途半端で十分とは言えないが、要はこのようにここで組織をしたときに、まずは第一段階の執行部会と言いますかあまり大勢の人数じゃなく例えば市長さんとか署長さん、とにかくトップクラスで第一段階の組織を作る、その下にあまり多人数ではなく、こういう諸々の団体の代表者を集めるというようにステップを2段階にして、あんまり人数を多くするとかえって動きにくくなるのではないかなあという事で、まずはトップクラスを7～8人で組織して、その下に20人か30人になるかわかりませんが、もうひとつの委員会をきめて、そこから末端へ行くような組織を作ったら何とか動けるのではないかなと、そして年度の初めには各ところから年間計画的なものを出し合いながら、確実に実行出来るようなそういったものから手掛けていけばなんとかなるのではないかとまとめました。なにか補足ありましたらお願いします。 補足しますとここで問題点になっているのは、各NPO、自治会、行政、警察、社協がバラバラに活動している、今までの皆さんの意見にもあったように横の連絡がなく全体としての全体を統一してどういう風であるかというのがなく、それをまず我々のところは真ん中にそういう組織が必要だという事で今回これを作ったという事です。それでまずワンステップですが先ほど言われましたが、個々に各校区ごとにさらに細かい組織がそこにつながるという事です。以上です。
-----------------	---

菊本委員	ありがとうございました。何かご意見ありますでしょうか。 今日お話しいただいた内容については、課題としてはいつもこの分科会でも出てきていた課題を、今日このように図にまとめていただいたのですが、改めてくり返しの所もありますが、図にまとめますと市全体各組織をまとめていただくような組織が一つないとだめじゃないかというような事。あと何回も出てきましたが情報共有とか連携のためには、そもそも団体間で何をやっているのかというのがお互いに周知をしていないということで、今日は具体的に踏み込んで年度ごとに各団体がどんな活動をしているか、そんな事について例えば年に一度会合を持つ事が出来れば統一的に団体間で連携を図って、じゃあ今年はどういうことを連携してやっていこうというような具体的な行動計画に繋がっていく可能性があるかと踏み込んだところまでご提案いただいたことと思います。ありがとうございました。 ではこちらのグループの発表をお願いいたします。
A委員	それでは動きやすい組織と役割について話し合いました。まず動きやすい組織にするにはどうするかと言いますと、活動の目的を明確にする事、それから地域との活動の内容とかを地域で情報共有する事、組織の概要を理解してもらう事、個人的に負担にならないようなことにする事。こちらの方に結論的なものがありますが、組織は協議会方式で各種団体に入ってもらい、地域によっていろいろありますけどもそこで十分検討して頂いて、この課題についてはこの団体が必要かなとかなんかもみんなで話し合ってください。会議というのは人が多いとあまりうまくいかないの、また烏合の衆にならないように、どの団体を含めるかはよく協議していただかなきゃいけないと思います。 それでこちらの方は各種団体の懇談会を開催していただいて、地域防犯についての共通認識をしていただいて、懇談会を開催しながら防犯に関する地域課題を見つけていかないと組織としてうまくいかないのかなと。その辺を踏まえて住民に周知して皆さんの理解協力を得る必要がある。 役割についてはですね、自分の役割をよく理解する。組織に入った人が自分の役割を十分に理解していないといけない。それから組織のバックアップ、役所とかへの周知を既存の組織の方に情報伝達をやってもらうのがいいのではないかな。 協議会でやる場合に自治会長の推薦だとか、誰かの推薦だとか言っていると、その組織はうまく前に進んでいないので、公募するとか最終的には候補の団体の代表者を入ってもらうとかにする。 これを全体的にまとめますと動きやすい組織にするためには何がいるのかというと、地域住民の理解と協力がなくてうまく進んでいかない、組織を作る場合十分に住民に説明をして理解していただく。こちらの方は役割分担として地域住民全体で取り組むこと。地域住民で役割分担をする。役員だけでなく末端の人までこの地域の防犯についてどのような役割が必要か考えて分担する。 このようにまとめました。
菊本委員	何かご意見ありますか
E委員	いいのではないのでしょうか 自分が地域に住んでいる意識を持って、みんなが全面協力することは何ら恥ずか

菊本委員	しい事ではないと思う。なんか好きなことやっとるでは何も動きませんからね。 落ち着くところは意識改革ですね。 ありがとうございます。今日は別々の件で取り組んでいただいたのですが、キーワードとしては情報をどう共有させていくかというのが共通する話題としてあがってきたのかなと思います。今日の内容を踏まえて提案書にまとめていただき、次回の検討にしたいとおもいます。今日はありがとうございました。
事務局	次回は 1月31日（火）午前9時30分～を予定しています。本日はどうもありがとうございました。